

2000年9月、栽培していた「コシヒカリ」の圃場の中から、籾が大きくて、草丈が15センチほど長い稲を見つけました。

一握りの籾を取り分け、翌年栽培



大波小波

今井 隆

して炊いてみると、香ばしさが部屋

中に漂い、釜を開けると粘りが強く、

衝撃的なおいしさでした。千粒重は

32gもありました。02年から試験栽

培を行い、品種登録を出願して06年

7月に「いのちの粍」として品種登録され

ました。

いのちの粍は、農業を通常の3分

の1以下に抑えて、契約農家につ

ていただいております。十数年前、

粉剤で稲の消毒をした時、ミミズが

のたちまわって苦しんでいるのを

見ました。それ以降、低農薬栽培は

私の信念になっています。

いのちの粍を地域農家とともに

ぐくみ育てていく中で、豊かな自然

環境を維持していくことが最も大切

であるという理念があります。秋に

は、NPO法人を設立し、できるだ

け自然の力に任せる方法で、山を混

交林に変えたいという夢を持ってい

ます。そして水田で浄化された水が

都市住民のものを潤し、きれいなま

まで海へ届けたいのです。

幸いなことに、いのちの粍（流通

名は「龍の瞳」）は、希少価値に加え

ておいしいことから高値で販売され

ており、契約栽培農家にも元気が出

ています。中山間地を活性化する起

爆剤にしたいと思っています。また、

低農薬栽培という環境下で、ホタル

やトンボが飛び交う憩いの空間がで

きつつあり、下呂温泉の観光に役立

ていただけたらうれしいです。

米の消費拡大が進まないのは、い

ろいろな理由があると思います。化

学肥料や農薬の多投で、米本来の味

がなくなっています。経済合理主義

のまん延により、山も耕地も、そし

て人間もおかしくなっています。

まだ31秒というわずかな作付面積

ですが、「衝撃的な味」「今まで食

べた中で一番おいしかった」などと

いう消費者の声に励まされながら、

天からの授かりものである「いのち

の粍」を、日本一のお米にしたいと

思っています。

（岐阜県下呂市萩原町、水稲「いのちの粍」育成権者）

森林と田んぼ、人をつなぐ